

矢作川流域圏懇談会「第2回川部会WG（本川モデル1回）」開催報告

1. 実施概要

(1)実施概要

○実施日時：平成24年6月23日(金)
13:00～17:00

○開催場所：

【集合場所・WG会場】

豊田市生涯学習センター美里交流館

【訪問箇所】

矢作川本川流域

・河道掘削箇所（白浜工区・野見工区）

○参加者：33名（事務局含む）

(2)内容

【プログラム】

1. 本日の進め方について
2. 現地調査
3. 質疑応答と意見交換
 - ・現地調査に対する質疑応答
 - ・本川における今後の活動内容や課題対応について
 - ・次回以降の日程について



現地調査風景



会議風景

2. 主な会議内容

第2回川部会WG（本川モデル1回）では、現地調査と意見交換の中で、本川における活動団体や管理者が抱える課題や活動内容について、情報共有し、課題の洗出しを行なった。WGで話し合われた内容は以下のとおりである。

- 現地調査では、河道掘削事業の概要、河岸・河畔のあり方における官民連携の取り組み状況等について説明があり、情報共有が進んだ。
- 意見交換では、主に河道掘削箇所の今後の取組み、オオカナダモ等の外来生物について、その現状と課題解決策について話し合われた。
- アユの生息等について、土砂動態（河床地形・材料等）について情報交換がなされた。動態やノウハウの客観的な情報共有がまだ十分と言えず継続課題である。
- 今後WGを進めていく上で、矢作川の環境の目標をどこに持っていくかを共通の課題とし、目標に対しての差の原因は何かということを考えていくこととした。
- 次回以降のWGは、家下川モデルWG2回が7月15日13:00～17:00であることを再確認し、本川モデルWG2回を8月23日13:00～17:00で開催することとし、会場等、具体的な場所は後日調整する。

3. 現地見学会概要

河道掘削箇所の白浜工区、野見工区について、現地を歩きながら、豊橋河川事務所岡崎出張所の小林出張所長より説明して頂いた。

(1) 現地概要説明

- 昨日の台風 4 号と手前の熱帯低気圧からの雨で水位が上昇している。台風 4 号の時は高橋に観察所があり、そこで 1m3cm 位、今は、-50cm 位なのでかなり下がっているが、平常時のまだ 80cm 位水位が高い。掘削現場の概要説明をすると、工事現場としては、久澄橋の下からと、あちらにある加茂川水門は国交省直轄管理の水門。そこから 800m 位行くと樋管があって、その区間までは今回の河道掘削の現場になる。
- 豊田市の河川課、公園課、森林局、研究所等の意見を聞きながら、掘る計量を決めたり、掘った後の水際の生物や環境にやさしいことに配慮し、線形とか掘り方も意見を聞きながら形状等工事を随時進めた。「せせらぎ」の池とその池の深く掘って、そこから自墳池から水を流す、そういうものを作った。



高水敷上での説明状況

(2) 白浜工区

- 3 割まで勾配をつけて成型した。
- 今、魚道下流側に四角い池が見える。まだ名前はまだこれからだが、大体通常より 80cm 位深く掘って、伏流水を利用してその下の方の石が並んでいる所が一応「せせらぎ」というような形で整備した。今でもかなり魚が池の中に入って波紋が出ている。
- 実験的に水制を作って池が埋まらないようにということで、効果どうこうではなくて実験的に作って形状を見ている。実際 3 月末に完成して 4 月に大体 1m 位水が流れた。
- これから洪水期を迎える中で、掘った当時に比べると形状も変わってきたし、魚等の種類等もいろいろ調べないとわからないが、ウナギ等も見つかったり、ハヤ等の小さい稚魚、アユの遡上もかなり入り込んでいる。
- 竹を刈って、竹の根っこも 50cm 程掘った。この木の形状、こんもりした山を当時のまま残してある。



高水敷上からせせらぎを望む



せせらぎの水際

- 下流の方の石も一応、せせらぎと本川をある程度安全対策も兼ねて並べてある。
- 工事で発生した河床の岩を掘削して利用して並べてある。石から向こうが深くなっている。
- ここで大体5万立米ばかり土砂を掘削して、豊田市の許可を得て足助の方に持ち込んだり、寺部小学校に持ち込んだりというような形で、極力安く無料で処分するような形にしている。

- 目の前に桑の木が3本見えるが、元々水際にあったもので、助言を受け移植した。
- 桑の木他に、千石公園から木を20本強実験的に移植して、木については30cmの所から2m位の所の大小、エノキとクスノキを中心に実験的に移植して、3本枯れたが今の所葉も付いて順調に成長している。
- 木も全部ナンバープレートをつけて、全部1本ずつ確認しながら切る木、切らない木ということで当時立ち会ってもらい決めている。
- 3年見れば大体河道掘削後の形が見えると思う。まだ、掘ってから3ヶ月経って、これからどう変化するか、楽しみでありながら不安もある。
- 当時工事中も15回程の研究所等に集まってもらって、会議をしながら決めていったが、終わった後も月に1回同じメンバーに集まってもらって、ここを1時間位歩いてもらって、意見を聞きながら今後の話を進めている。それを4月19日と5月31日、一応毎月20名程度集まってもらって、そういう意見交換会も続けている。
- 裕さんとカブトムシの森を作ろう、ということで今手配している。昨年も成虫を捕まえる予定だったが、手違いがあって捕まらなかった。
- 今年は成功させたいと、矢作ダムの中部電力にもお願している。



移植した3本の桑の木



3割勾配の法面の状況



カブトムシの森 (写真奥)

(3) 野見工区

- ここも当初竹がボウボウだったが、ある程度、年配の方も子供もここからでもアクセスできるような形にした。
- ここから下流が野見工区で、こういう添え木がしてあるのは、全部千石公園から移植した。全部で21本、3本枯れて、この前の台風でも小さい木もなんとか頑張っ成長している。

この添え木も全部実験的に、わざと大きさを変えて、小さいものから大きいものまで移植して、今後の移植の参考にできるような大きさの木を移植している。

- 夏場が1つの勝負で、夏場を乗り切ればなんとか大丈夫だと思う。
- それが一番大きい移植した木。移植のやり方のデータは今後のために全部取ってある。
- ちょっと見える黒いのは何か？()
- 今回河道を掘る時に、漁協と矢作川沿岸水質保全対策協議会の方で小堤を残して濁水対策で、その中を掘って最後に焦点を取るといふ、それも取る時に濁水が出るので、これも指導で小さく残して、自然に流れていくようにしている。



実験的に移植した木

- ちょうどいい木陰、これは元々あった木で残してある。ここも当初、成型で河道掘削する予定だったが、ギリギリで残した。
- 濁水対策で小堤を残してこの3ヶ月の工事で若干取ったが、まだ当時のまま残っている。ここもかなり魚はいる。先ほどの、「自墳池」に負けない位魚の数、種類がいる。
- 水が増えてもあの間はもう子供でも十分中に入って遊べるように安全対策している。
- こちらがこの河道掘削から出た埋没林。
- 豊田市の方で年代を測定している。
- 普通、埋没林は広葉樹だがどうも針葉樹もあるということで、珍しいと言っていた。
- これはどの高さにあったもの？
- この高さより5m近く掘っているのだから、その間の地層の中に入っていた。かなり河床に近い所のものである。



河道掘削で出た埋没林

- 裸になっている斜面は地山が出ているわけか？つまり昔河床であった所が出ているわけで、前の種子がもしあるとしたらそれが復活するかもしれない。他の川では良くあるので、そういうのも気にしてほしい。(鷺見)
- こちらが加茂川水門。本川の水位が上がった時に、逆流防止のためということで、一応国交省が直轄管理で大きな役割を担っている。
- ここも結構水がキレイで魚が集まってきている。

4. 質疑応答と意見交換

副部長内田先生の司会のもと、質疑応答と意見交換を行なった。主な意見交換の内容は、以下のとおりである。（・ ご意見、提案 ▶ 回答）

（１） 河道掘削箇所について

- ・ 水辺として規模的には古巣に次ぐ場所であると個人的には考えている。地先の課題と市民団体の森林塾の方々に関わり、維持管理、樹木管理まで市民が行なっている。釣り師を養成する場所にもなっている。今、ロープを張っている状態であったが、あのような設備を作ると、安全面で裁判に負けるということもあるので、市民、森林塾、漁協、市、国交省で議論がはじまっている。3割勾配にしているが、国交省が整備すると、きちり管理してしまうので、少し変な印象を受けるが、洪水を経験する中でいかに自然に機能を保ちながら、生物も魚も棲みやすい環境にできないかということで、長期的な目で考えている。早く人を入れられないかということと矛盾はするが、それをこれから考えていきたいということで議論している。（事務局）
- ・ 豊田市内、岡崎市内で、タケやタケノコを採った方が、現行犯で捕まった。河川にあるものは公共物なので、勝手にとれないのは事実であるが、数量の小さいものは、犯罪にすべきでなく、自由使用の範疇でやりたいと考えている。当面は、電話で構わないので、出張所に許可を得て欲しい。あるいは、アドプト制度では、竹林全てを管理できるなど、いろんな方法があるので、相談してほしい。（事務局）
- ・ 古巣に次ぐ場所と位置づけているということは、初めて聞いた。（内田）
 - ▶ それは私の思いです。（事務局）
 - ▶ 価値を持つ場所にしたいということで、意気込みが感じられる。（内田）
- ・ 手元にある平面図は、2年ほど前に新見いくおさんから、なにかよいアイデアはないかということで、描いた絵である。掘削をするときにこういう形状もありえるのではないかと考えたものである。（内田）
- ・ このアイデアは、高水敷の部分か。（鷺見）
 - ▶ そうである。（内田）
 - ▶ 天竜川では、こういう場所がたくさんある。今日の現場では、川がへこんでいる場所で、攪乱されるかもしれないが、勝手に維持されるのであればよい。低水路の部分では、こういう場所ができるのはあり得るのではないか。（鷺見）
 - ▶ 矢作川本川は、上流から下流まで人工に近い形で直線的に単調に流れている。昔の矢作川の話を知ると、横方向に変化が多かったと聞くことが多い。現在の矢作川では、自然にそういう場所ができるかということ、上流にダムがあり土砂移動も少ないこともあり、難しい。人工的に川の様子を見て、手を加えながら、かつてあった川の複雑な環境を取り戻すということがあってもいいのではという思いで作った。（内田）
- ・ 関わっておられた方から、話を聞きたい。（鷺見）
 - ▶ 魚について、矢作川の個体数が少なくなり、魚種が限られてきている。あの矢作川は、放っておくと、悪化の方向に行くだろうと考えられる。その悪化の原因を考えると、水の流れ自体の問題がある。今日見た場所を増やせばいいとは単純に思うが、それ

にはたぶん治水上の問題がある。全てやることは問題だと思うので、それができる区間はどこか、それを確認できればよい。また、人がたくさん来て欲しいと思うが、気軽に行くためのアクセスの問題がある。(光岡)

- 治水の問題について、治水と両立しないのではという話しであるが。(内田)
 - 今日の場所は暫定の施工で、治水と環境の両立を考えている。治水を考えると全川でやれるかというところと不可能とは思っている。今日の場所のように、やれるところをやってみて、今から感触を掴んでいくような状況である。(事務局)
- どのくらいの密度で配置できるか。(光岡)
 - このくらいのピッチでできるという数字は、今は持ち合わせていない。(事務局)
- 掘削しすぎてしまうと堤防に直接水があたってしまうので、高水敷はある程度残していかなければならない。基本的には、掘る分には流下能力は上がる方向でよいか。(内田)
 - 堤防の防御ラインというものがあり、一定の区間は守らなければならない。もう一つは、あの区域でも、将来的にはさらに掘削しなければならないということがある。その時にできるかということもあるので、今日見た場所で知見を深めて、他の場所にも展開できるかを確認していかなければならない。(事務局)
- 今の法面からどのくらいセットバックする必要があるか。(鷺見)
 - 河床と対岸は切る必要がある。また、河床が深くなる分、斜面も後ろにいく可能性がある。(事務局)
- 川の低い部分が広いとどうなるかというところ、中小の出水では、川底は動きにくくなるということも考えておく必要がある。(鷺見)
- 鳥の立場からはいかがか。(内田)
 - 横の出入りがあれば、生き物は棲みやすくなる。今日の場所でも真ん中の大きな木をよく残していただいたと思う。(高橋)
- 前の状態からすると、特にタケが減ることになるが、それにより悪い影響を受ける鳥はいるか。(内田)
 - 鳥は、いろんな環境があった方がよい。単純に両岸ともタケだと、生きられる鳥は限られてしまう。(高橋)
- 河川掘削工事で、それに相当するものを作るということで、せせらぎについては、阿部夏丸さんに任せた。カブトムシの森にしようということで、須崎主任研究員と作ってきた。工事は3月に終わり、人を呼ぼうということもあるが、自然が増えてくればよく、まずはそれを観察し、それに対応した安全対策をしていければよいということを考えている。駐車場はいくらでも作る場所はあるが、そうするとモトクロスのような利用がされることもあり、まずは自然に任せて、それを観察して段々といいものにしていきたい。雑草も本当は切りたくはないが、外来種の問題があるので、それは実施している。今年いっぱい、そういう観察を続けたいと思う。(裕伸夫)
- 高橋～いたち排水溝まで約2.5kmあるが、豊田大橋の上流において、去年の出水でえぐられて、いい感じの川底になった場所がある。えぐられたから補修するというのではなく、その経過を観察していきたいと考えている。(裕伸夫)
- その場所はどこか。(内田)

- 場所は、豊田大橋から千石あたりの左岸側である。(碓伸夫)
- 是非、皆さんこの場所に注目して、今後様子を見ていきましょう。(内田)
- 掘削してからそんな洪水を経験していないので、高水敷に乗るような洪水が起きた後に、どういう環境になっていくかということに関心がある。今、いい環境になっているかもしれないが、もともと堆積してきたところなので、また堆積するのではないかと考える。膨大な場所をマンパワーでどこまで管理できるか。人が手を加えるということは、誰かが責任をもって監視したりする必要がある。川は、その営力で変化していくので、しばらく様子を見ていく必要がある。また、場所はあの場所がいいのかという問題もある。その場合は、いい場所を探さないといけないかもしれない。(小澤)
- 去年の秋の出水は、東海豪雨以降、1, 2を争う出水である。その時には、高水敷に乗ったか。(内田)
 - 豊田では、高水敷にのっていない。(事務局、出張所)
 - 確かにあれを作るときに、1回出水が来たらなくなってしまふよという人もいたが、それはそれで、そのときに考えればよいということで、作っていった。草刈は、今、20人くらいボランティアで来てくれている。(碓伸夫)
- 共通の認識ができたかという疑問はある。今回の現場見学会の説明は以前に聞いたのか。治水ありきということであれば、図面を見て説明いただければ、皆理解しやすいかなと感じた。まず、同じ認識を持ってからスタートした方がよいのでは。(小野田)
 - 鵜ノ首の開削をただけでは、豊田の治水は不十分で、河道掘削をして流下能力を高めていく必要があると聞いている。その一環として、生物に配慮した試みを行なっている。(内田)
- 今回治水のために広げたわけですが、広げた中で、平水のとときにどう変化を与えるかということに対する実験場所になってほしいと思った。例えば、テトラポットを設置してみてもどうか。(新見)
- 今の矢作川を見ると、変化があまりないのがよくないということか。(事務局)
 - 緩い流れなりに変化を持たせることはできないか。(新見)
- 横向きの流れをつくる工夫ができないかということ。どこまでせめぎ会えるかということを考えていいということか。(鷺見)
 - そうである。(新見)
- 漁協の立場で言うと、船で久澄橋の下流から眺めてみたが、思ったより掘削したようで、久澄橋の下流 200m くらいのところが、明治用水から上流にある最初の瀬である。その瀬に力がなくなってきた。もともとは川の流れていうと、州が溜まる場所である。(木戸)
- 工事後の微妙な変化は測量しているか。(内田)
 - 工事後は、まだやっていない。(事務局)
- そういうデータがあれば、その状況が少しわかるかもしれない。(内田)
 - 瀬の関係であれば、定期的にその変化を見ていく必要がある。(事務局)
- 苦情の出る可能性が高い。かなり流速が落ちている。(木戸)
- 河床が下がって、堰上げの影響を受けている可能性がある。それを把握するには、横断をとっていく必要がある。(内田)

- ・ 総合的にモデルとして取り組んでいるという印象がある。洪水を経験する中で、また状況は変わってくると思う。カブトムシについて、取水口のゴミをストックしてあり、分別しているので、腐葉土になるものは、協力できればと考えている。(藤澤)
- ・ 越戸ダムで、どのくらいの土砂が通過しているかを把握しているか(鷺見)
 - ▶ 通過量はわからないが、堆積している量は把握している。(藤澤)
- ・ 越戸ダムの流量データの情報を提供いただけないか。越戸ダムから来ている流量は、かなり安定している。籠川の自然流量との合成で、高橋の流量が決まっているのではないかと思う。(内田)
 - ▶ 懇談会の資料ということで言うのであれば、提供できる。(藤澤)
- ・ ここがどうなっていくかというのは、きちっと見ていきたいと思う。明治用水頭首工の溜まる域での実験場になるので、上流側にそのまま適用できるわけではなく、対岸は水衝部になるので、また違う方法になると考えている。水位の問題を小林さんも悩んでいたが、ゲートの操作で影響を受ける。(宮田)
- ・ ゲート放流のやり方で水位、流量が変化する。(事務局)
- ・ 人工的影響が大きい場所である。(宮田)
- ・ 水位がどうなるかということと、川底がどうなるかということの両方を考えていかなければならないという難しい場所にトライしていることになる。(鷺見)
- ・ 内田先生の絵はとてもいいと思った。今回視察した場所は、淀川と景観が似ている印象を受けた。今後治水維持していくのであれば、長期的視点で維持していければよいと思う。淀川では貴重なタナゴ類が復活したと言われているので、矢作川では全滅したと思われるぐらい取れない魚たちなので、昔はもの凄いい沢山いたと聞いているので、魚の為にも良いと思う。伏流水で出てくる水があれば、冬は暖かい水になって、魚が育って釣り場にもよく、このような環境を作るなら大事にしてもらえればよいと思う。(山本)
- ・ 普段は上流と水はつながっておらず、河原のへこみの所に水が湧き出し、堤防の蛇籠のところに深く折れているところがあって、下流に行くと、そこに魚がたくさんいる場所が何ヶ所かある。そこは何度も取水が起きるけど、常に水があたるところで、埋まらない、微妙に形は変わるけど、同じ形が長年に渡って維持されている。そういうことを考えながら、せせらぎを作っていく必要があると思う。(内田)
- ・ 都会の近くでこういう空間があるのはよいと感じた。ところどころ水辺に近づける場所があるということは、環境学習等にも使えるし、自然な場所もあっていいと思う。(北村)
- ・ トヨタスタジアムの周辺については、豊田市の中央公園の基本構想がある。今日の部分は直接かからないかもしれないが、中央公園が矢作川と連続した空間とすることを検討しているところである。中央公園ははじめから人間が利用することを前提としている。(鷺見)
- ・ 豊田市で都市計画の中で公園にしていく構想でよいか。(内田)
 - ▶ そうですね。ただ今回視察した場所は、そこから少しはずれたところになる。(北村)
- ・ それをはずれたと見ないことが必要ではないか。(事務局)
- ・ 中央公園がどういう位置付けになるかということが重要である。(鷺見)
- ・ 今後、人の集まりの経過を見てみたいという意見に賛成である。参考資料にあるように、矢作川新報などもっと PR してみてもどうかと思った。(神谷)

- ・ 一つ一つの現象を追っていくのが大変である。ミクロの動きとマクロの動き、各々どう捉えていくか、何をモニタリングしていくか。古巣水辺公園も徐々に環境が変わってきているので、抜かれないように、いろいろ取り戻さなければならないと思っている。(清水)
- ・ 今のせせらぎの進め方など参考にしたいと思う。(高橋)
- ・ 籠川の合流で川の様相が若干異なる。オオカナダモ、カワヒバリガイの問題は、上流側に多い。おそらくダムの問題だと思うが、その問題については、愛知県のほうが深刻である。
- ・ 瀬を再生するという話しは難しいのではないかと。よく川は川に造らせろという話がある。人間が気持ちよく歩くというのでは、近自然河川公園を目指していただければと思う。なくなり欠けているものを、同じ場所に元に戻すのは難しい。(本守)
- ・ これまでにも、矢作川が本来どうあるべきかという議論があり、なかなか結論は出ていない。瀬淵を取り戻すのは、今後大きな課題と認識している。(事務局)
- ・ 汽水域でも、河道横断的に見ると、瀬がある箇所もある。(木戸)
- ・ 平坦化しているのが問題で、横断的に凹凸が必要である。バックの影響はあるが、水が縦に流れて横断方向に水が付け変わらない流れの構造になっている。
- ・ 問題は、横断方向に水を付け替える構造ができるかどうか。今後、さらに細かく議論する機会が得られればと思う。(鷺見)
- ・ 洪水の流れ、上流の流れは分かった。公園になって、子供達が水辺で遊ぶには、土が混ざっていて危険である。危険性のない構造になれば、川の遊び場として安全。(松井)
- ・ 夏休みの対応はどうされるか。(内田)
 - 今月末関係者が集まり決めることになっている。(事務局)
 - 看板を立てるよりは、一年間はロープを残しておいてはどうかと思っている。(裕伸夫)
 - 対応は、今月末にまとめる予定である。(小林)
- ・ 木の下は涼しくてよかった。これも一つの財産であり、うまく活用して公園にしていなければと思う。(高橋)

(2) オオカナダモについて

- ・ 水の中が見れなかったが、オオカナダモの大繁茂が問題である。どなたかオオカナダモの現状と今後どうしていけばよいか。(内田)
 - 冬場に川に潜って、除去の方法を試した。はじめは消防ホースを使ったがうまくいかなかった。7kgのエアを送ってやると、割合とれる。確かに、去年の出水で減少したように見えるが、根からとれておらず、また生えてくるだろうと考えている。根からとらないとダメである。エアを根に向けて吹いて、上の方に引っ張ると根っこから抜ける。天ぷらにしてみたが、とても食べられない。肥料にできないかトライしたい。(裕伸夫)
 - バイオ燃料にはなる。効率は悪いが。(事務局)
 - 肥料にしようと畑に蒔いた人がいて、そうすると畑から芽が出てきたと聞いた。(裕)
- ・ 矢作川は、籠川から上流と下流で川の質が違う。上流はかなり大変で、外科的手術が必要である。(木戸)
- ・ 上流には、岸辺にヘドロがいっぱい溜まっている。(裕伸夫)

- ・ ダム直下は、そういう状況になりやすい。砂とか土砂は、人為的に下ろして影響が大きいのは、越戸ダム直下流である。(木戸)
- ・ 外来種が急に増えて減ったりするのは、どういう現象か。昔と違うのは、昔は水量があつて河床がよく動いていた。今とは違う影響で、そういったものが出る。
 - 研究所の内田さんの奥さんが研究をやっている。(碓伸夫)
 - よっぽど攪拌されない限りは減らない。豊川はひどい状況である。矢作川は、砂だから部分的に攪拌が起きて、まだ状況が良い方である。(事務局)
- ・ 籠川の上流下流で石と砂の状況が違う。上流はどういう状況か。(鷺見)
 - 石と砂のコンビネーションの中に入ってきて、籠川の下流は、砂が動くのでまだ攪拌が起こるのでよい。(木戸)
- ・ 今、籠川の上流で新兵器を使って、根を浮きやすくしてやっている。それと、籠川にはオオカナダモがない。(碓伸夫)

(3) 矢作川の環境の目標像について

- ・ いろんな問題があるが、目標の議論をしておかないと。架空の目標を作つてではなくて、知っている人の年代の状況を想定して、戦争前の状況に戻そうとか具体的な目標を考える。各自が全く異なる目標を持って進んでいてはまずい。意見交換をしていると、根っこでは皆つながっているような感じがする。今後、まとめていくのに、一つ目標をどこにもっていくかを意識しながら、議論してはいかがでしょう。(内田)
 - 川の恩恵は、人間は受けているが、半面、影響も受けている。矢作川上流のダムは、メタボになってしまっているが、運用規定は昭和 45 年のままで、運用規定を変える必要があるのではないか。今の川に合わせてどういうふうにできるか。昔に戻すというのは難しく、社会生活を変えてくださいということではないか。(木戸)
- ・ どこにも例のないような目標を考えないといけない。それぞれの分野で、いい状態があつて、それに向けて何ができるかを考える。(内田)
 - 私が病気になると、まずカルテを作るが、まちづくりにも市街地整備カルテがある。まずカルテを作るしかないのではないかと思う。(木戸)
- ・ 現状の問題を起こしている根本的な問題があつて、それらをあきらかにしつつ、どういう方向に持っていくか考えるということではいかがか。(内田)
- ・ 庄内川では、アユもシジミも取れるが、水質が悪く食べられない。食べられるように、川をきれいにしようということで動いている。矢作川をもっと見て、どんな川にしたいか議論するという手法はないか。(本守)
- ・ 国交省がやる気になってくれているうちにやらないと。(木戸)
- ・ 魚の棲みやすい川づくりからスタートして、大きな目標に向かって議論していく必要がある。外来種の問題、アーマーコートの問題、単調な川、魚が逃げ込めない場所があり、魚だけでもいろんな問題がある。そうした課題を 1 つずつ潰していけると、その先に目指すべき矢作川があるのではと思う。(事務局)
- ・ もし矢作川がないと、都市の気候も変わる。河川行政の方々は、都市行政にも食い込んでがんばっていただきたい。(木戸)

- ・ この議論はまだまだ続きそうであることはわかった。今後、共有していくものとして、矢作川の環境の目標をどこに持っていくのかを共通の課題として考えることにしましょう。その目標を考えるとときには、その病気の原因は何かということを皆で診断して考えていくということではいかがか。(内田)
- ・ 了解した。(全員)

(4) 次回本川モデルの日程調整

- ・ 今後の予定を考えておかなければならない。7月15日に2回目の屋下川モデルWGがあり、それについては大体決まってきた。ここで決めておきたいのは、2回目の本川モデルである。(内田)
- ・ 日程調整について、次回は、8月23日(木)13:00~17:00でいかがか。(内田)
- ・ 平日で大丈夫か。(事務局)
- ・ 了解しました。(全員)
- ・ 議論はもう少し絞っていったほうがよいと考えている。矢作川研究所の会議室を借りることができればよい。(事務局)
- ・ 矢作川の土砂管理についての勉強会が、7月22日13時~16時までであるので、確認してください。(事務局)
- ・ 学生代表で今日の感想はいかがか?(内田)
- ・ カルテを作るということがおもしろいと思った。(松井)
- ・ 今日の議論で、瀬淵の問題、それと順応的管理、つまり、様子を見るということを順応的管理というが、予算のついている国では難しいことで、実際にやっていくのは、画期的なことであると考えてよい。(鷺見)
- ・ 最後に、振り返りシートだけ書いてください。本日はありがとうございました。(事務局)

以上

※前日の出水の影響で、増水していたため、白浜工区・野見工区のみを視察

